

第7次智頭町総合計画

基本計画に基づく実施計画(平成29年度～平成33年度)

将来像	基本理念	基本計画				担当課	優先度	(千円)		(千円)		
		視点	方針	事業番号	番号			実施計画	H29年度(実績)	H29年度(評価)	H30年度(実績)	H30年度(評価)
ちづ暮らしの道しるべ 一人ひとりの人生に寄り添えるまちへ	Ⅲ 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり	①学び	(1) 生活の知恵から趣味や仕事まで、くらしを彩る学びを増やす	1	65	保小中連携による教育活動の向上	教育課	○		C	0	C
				2	66	特別支援教育支援員の配置による特別支援教育の充実	教育課	◎		B	12,630	B
				3	67	学校評議員の意見を取り入れた学校運営の充実	教育課	△		C	0	C
				4	68	教職員の教育力の充実	教育課	○		C	0	C
				5	69	学校現場でのICT機器の活用	教育課	○		C	0	C
				6	70	開かれた学校づくりの充実	教育課	○		C	0	C
				7	71	児童生徒の顔が見える少人数学級の実施	教育課	◎		B	4,000	B
				8	72	学校不適応児童生徒に対する適切な指導の推進	教育課	◎		C	692	C
				9	73	学校と家庭の連携による良好な生活習慣の定着	教育課	○		C	0	C
				10	74	国際感覚の醸成(韓国江原道楊口郡との交流と英語教育の充実)	教育課	○	1,980	C	9,372	C
				11	75	学校図書館の充実(学校司書配置継続と図書館との連携強化)	教育課	○		B	5,560	B
				12	76	智頭町教育ビジョンに基づく教育(成果の検証とさらなる向上対策の推進)	教育課	○		C	500	C
				13	77	青少年の健全育成の推進	教育課	◎	886	C	383	C
				14	78	ちづNEXT	企画課	○	0	E	0	E
				15	79	地域の良さと歴史文化など、郷土を大切に学習の導入	教育課	○		C	393	C
				18	80	図書館を中心にした賑わい創出	教育課	◎	616	D	32	C
				19	81	各文化サークルの活動支援と参加者の加入促進	教育課	◎		D	450	C
		20	82	文化財保護・活用方策の明確化	教育課	◎	2,700	D	1,362	C		
		21	83	地域伝統文化の後継者育成	教育課	◎	0	D	0	C		
		22	84	各地区公民館の地域の生涯学習拠点施設としての明確化	教育課	◎	26,722	C	25,762	C		
		23	85	各地区公民館と中央公民館の役割の明確化と連携強化の促進	教育課	◎	0	D	0	C		
		24	86	図書館事業	教育課	◎	28,709	C	26,729	C		
		16	87	智頭農林高校との連携	企画課	○	6,995	C	5,590	B		
		17	88	森林・林業教育の推進(児童・生徒の学習体験、木育の推進等)	山村再生課	△	1,147	C	1,247	B		
		②仕事	(2) 受け継いだきた仕事を活かし、新たなチャレンジを広げる	12	89	企業支援事業	企画課	◎	0	B	38,749	B
				13	90	商店街との連携による空き店舗の活用検討	企画課	○	0	C	400	C
		③仲間づくり	(3) 活動を広げる仲間づくり、小さなつながりを幾重に連ねるコミュニティへ	3	91	イベント活性化促進事業	企画課	○	0	B	73	B
				4	92	ゼロイチの更なる発展	企画課	○	19,735	C	1,500	C
				7	93	空き校舎等活用推進	企画課	○	17,310	C	10,550	C
				8	94	空き校舎等利活用研究事業	企画課	○	300	C	245	C
				9	95	地域体育館(空き校舎)の生涯学習・交流の場としての活用	教育課	○	141	C	0	C
				11	96	百人委員会	企画課	◎	4,554	C	5,892	C
				12	97	総合計画周知及び実践事業(検証含む)	企画課	○	1,620	C	0	C
		16	98	国内交流事業の積極的な推進	企画課	○	7	C	45	C		
		17	99	国際交流の推進	企画課	○	2,313	C	2,601	C		
小計							115,735		154,757			

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 保小中連携による教育活動の向上

事業番号 学び 1 (65)

## Purpose

(事業の目的)

小1、中1で表れる問題やギャップなどに解消のため、保育園、小学校、中学校のそれぞれの間で連携していくとともに、児童生徒の相互交流を進める。

## Plan（目的達成のための計画）

- 1 教職員の連携
- 2 児童生徒の交流
- 3 保護者への情報提供

## Do（目的達成のために実行したこと）

教科でつながる小中連携授業力向上支援事業活用  
中学校出前授業、小（中）学校体験入学  
早期支援コーディネータによる巡回相談  
スクールカウンセラーの活用

## Act（目的達成のために改善する事）

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用  
幼保小によるアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直しと実施

## Check（目的達成できたかを確認）

中学校における不登校生徒人数「0」を達成

《評価》

C 学校統合による仲間づくりの効果が表れている。課題を抱えた家庭への対策が必要なため、継続して事業を実施する。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 特別支援教育支援員の配置による特別支援教育の充実

事業番号

学び 2 (66)

## Purpose

(事業の目的)

小・中学校に在籍する発達障がいを含む障がいのある子どもたちを適切に支援することが求められているが、教師のマンパワーだけでは、十分な支援が困難な場合がある。このような場合に支援員を配置し、子どもたちへの適切な関わりとスムーズな学級の運営にあたる。

## Plan（目的達成のための計画）

1 特別教育支援員の配置

## Do（目的達成のために実行したこと）

小学校に特別支援教育支援員を7人配置

## Act（目的達成のために改善する事）

特別支援教育の取組や推進を継続し、特別支援学級の運営を行う。  
今後とも、特別支援学級が継続されることと、発達障がいの児童が一定程度在級する実態から、支援員の継続的な資質向上のための研修を行う。

## Check（目的達成できたかを確認）

学校及び学級の運営のための必要実態に則して必要人員を配置。  
特別支援学級と、支援を要する学級における児童の安定を図ることができている。

### 《評価》

B 必要人員を配置し、特別支援学級と支援を要する学級における児童の安定を図ることができている。今後、児童の成長とあわせ、支援員の配置の範囲および人員を調整したうえで事業を継続する必要がある。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 学校評議員の意見を取り入れた学校運営の充実

事業番号

学び 3 (67)

## Purpose

(事業の目的)

学校が、保護者や地域住民等の信頼に応え、家庭や地域と連携協力して一体となって子どもたちの健やかな成長を図るため、より一層地域に開かれた学校づくりを実施する。

## Plan（目的達成のための計画）

- 1 学校評議員会の開催
- 2 各種事業への出席要請

## Do（目的達成のために実行したこと）

学校評議員会の実施（小・中）  
参観日、学校行事等を文書で案内（小・中）

## Act（目的達成のために改善する事）

今後、さらに学校評価によるチェックを行う。

## Check（目的達成できたかを確認）

学校評議員と連携し、地域に開かれた学校づくりに努めている。

《評価》

C 学校現場と学校評議員が連携し、地域に開かれた学校づくりに努めている。今後も継続した取り組みが必要である。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 教職員の教育力の充実

事業番号 学び 4 (68)

## Purpose

(事業の目的)

町民が期待する学校教育を実現するためには、子どもたちや保護者はもとより、広く社会から尊敬され、信頼される質の高い教師を養成・確保することが必要であり、保護者や地域住民、関係機関などの協力を得ながら学校経営を行う。

## Plan（目的達成のための計画）

- 1 研究テーマへの取組
- 2 授業力アップ研修
- 3 人権研修の実施

## Do（目的達成のために実行したこと）

年間2回の学校訪問  
教科でつながる小中連携授業力向上支援事業をととした授業改善への取組  
授業力アップ研修会（思考スキル）実施

## Act（目的達成のために改善する事）

学力向上、授業力向上へ向けたPDCAを回す。  
人権研修については、新規採用教員研修会で実施する。また、町内で実施される人権研修会への参加を促す。

## Check（目的達成できたかを確認）

これまで中学校入学時に学力（標準学力調査）が低下していたが、今年度の1年生はほぼ順調に推移した。

## 《評価》

- 新学習指導要領で求められている授業への転換が必要となる。今後も継続した取り組みが必要である。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 学校現場でのICT機器の活用

事業番号

学び 5 (69)

## Purpose

(事業の目的)

校務に係る業務の情報化による効率化やその他システムの導入を進め、教員が児童生徒と関わる時間を確保する。  
ICT機器の活用により児童生徒の学力定着を図る。

## Plan（目的達成のための計画）

- 1 学校業務システム共同調達
- 2 教育用タブレットの充実
- 3 ICT機器の授業活用

## Do（目的達成のために実行したこと）

学校業務支援システムを共同調達し、運用を開始  
学校業務支援システムの小学校・中学校現場での操作研修会を実施  
iPad（特別支援学級用）を購入し、使えるデジタル教材を増やした

## Act（目的達成のために改善する事）

ICT機器、システムについて効率化を視点とした活用を一層進める

## Check（目的達成できたかを確認）

学校業務支援システムについては、完璧に使いこなすところまでの活用が出来ておらず、作業効率化について十分な効果は得られなかった  
ICT機器の整備が進み、タブレットを活用した授業も増えてきた

## 《評価》

C 県で統一の学校業務支援システムが導入され、校務に係る業務の情報化による効率化を進めている。今後、授業でのICT機器の活用など、さらなる取り組みが必要である。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 開かれた学校づくりの充実

事業番号 学び 6 (70)

## Purpose (事業の目的)

学校が、保護者や地域住民等の信頼に応え、家庭や地域と連携協力して一体となって子どもたちの健やかな成長を図るため、より一層地域に開かれた学校づくりを進める。

## Plan（目的達成のための計画）

- 1 学校公開日（参観日）
- 2 学校だよりの配布
- 3 ゲストティーチャーの活用

## Do（目的達成のために実行したこと）

創造的学習などで活用できる予算を確保する。

## Act（目的達成のために改善する事）

さらに家庭や地域と連携協力して子どもたちの健やかな成長を図る。

## Check（目的達成できたかを確認）

学校公開日、ゲストティーチャーを活用した授業実践がなされた。

### 《評価》

C 学校公開日、ゲストティーチャーを活用した授業実践などがなされたが、今後も学校と家庭・地域が連携し、継続して事業を実施する必要がある。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 児童生徒の顔が見える少人数学級の実施

事業番号 学び 7(71)

## Purpose

(事業の目的)

児童生徒の集中力、理解力、意欲の持続など、教師からの声かけや机間指導の面、きめ細かな個々への指導や支援を考えた場合、1学級の人数は30人程度までが適切である。県の事業を活用し、少人数学級事業を継続実施する。

## Plan（目的達成のための計画）

県の事業を活用し、少人数学級事業を継続実施する。

## Do（目的達成のために実行したこと）

- ・ 県への事業活用申請
- ・ 少人数学級事業実施のための予算確保（町負担ありの事業分）

## Act（目的達成のために改善する事）

児童、生徒数の減少により今後、少人数学級事業（町負担あり）の活用が増える。予算確保に向けた計画が必要となる。

## Check（目的達成できたかを確認）

少人数学級事業を継続実施することができた  
平成30年度は、小学校1クラス、中学校1クラスが該当

### 《評価》

B きめ細かな個々への指導や支援を考えた場合、1学級の人数は30人程度までが適切である。今後も県の事業を活用し事業を継続実施する。



# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 学校不適応児童生徒に対する適切な指導の推進

事業番号

学び 8 (72)

## Purpose

(事業の目的)

相談員の配置や、スクールカウンセラーを活用し、児童生徒の相談を受けたり、家庭との連携を図ることにより不登校をなくしていく。スクールソーシャルワーカーの配置により児童生徒、家庭への支援の充実。

## Plan（目的達成のための計画）

- 1 相談員等の配置
- 2 スクールカウンセラーの活用
- 3 スクールソーシャルワーカーの配置

## Do（目的達成のために実行したこと）

学校生活適応支援員の配置  
スクールカウンセラーの活用、スクールソーシャルワーカーの配置

## Act（目的達成のために改善する事）

福祉課と連携した家庭支援の充実  
八頭郡教育支援センター等の期間との連携

## Check（目的達成できたかを確認）

中学校における不登校生徒人数「0」を達成

《評価》

C 中学校における不登校生徒人数「0」を達成したが、今後も課題を抱えた家庭への対策が必要となる。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 学校と家庭の連携による良好な生活習慣の定着

事業番号 学び 9 (73)

## Purpose

(事業の目的)

家庭と地域の力を引き出し、生活習慣の充実を図るとともに、外部専門家を招へいし、講演会を開催する。家庭では、望ましい生活リズムの習慣化や計画的な家庭学習の実践化に努め、根気強く学習に取り組もうとする姿勢を身につけさせ、生活を自己コントロールする強い意志を養う。

## Plan（目的達成のための計画）

- 1 講演会の実施
- 2 生活習慣の確立
- 3 PTA研修会の実施
- 4 ノーメディアデーの取組

## Do（目的達成のために実行したこと）

- ・生活習慣アンケートの実施
- ・町教育会と連携したノーメディアデー（メディコンデー）の実施

## Act（目的達成のために改善する事）

学校と連携したメディアコントロールへの取組を継続する必要がある。

## Check（目的達成できたかを確認）

生活習慣は概ね確立してきたが、メディアコントロールが課題である。

## 《評価》

C インターネットに通じる機器を持つ児童生徒が増えたことで新たな課題も生じている。学校と連携したメディアコントロールへの取組が必要である。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 国際感覚の醸成（韓国江原道楊口郡との交流と英語教育の充実

事業番号

学び 10 (74)

## Purpose

(事業の目的)

智頭町と大韓民国楊口郡との間で、平成11年に交わされた「友好提携に関する協定書」に基づき、その一貫として中学生を中心とした青少年交流事業を実施。また、中学校生徒の英語教育力の向上並びに小学校から早期に生きた英語に触れ、英語教育の充実にむけた実践指導を行うとともに国際理解・国際交流を深めるため、外国語指導助手を配置する。 小学校での外国語活動の必修化に対応する事業の実施。

## Plan（目的達成のための計画）

- 1 楊口郡交流
- 2 A L T の配置活用
- 3 学力向上事業（英語）

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 1 楊口郡交流  
4泊5日の訪問
- 2 A L T の配置活用  
A L T を中学校・小学校にそれぞれ配置 + 保育園でも活用
- 3 学力向上事業（英語）  
小学生英会話教室の参加枠拡大、地域のネイティブスピーカーを講師に活用

## Act（目的達成のために改善する事）

- 1 楊口郡交流  
来年度は、受け入れに向けて早めに準備を行う
- 2 A L T の配置活用  
A L T の活用方法を検討する
- 3 学力向上事業（英語）  
新たなネイティブスピーカーの発掘

## Check（目的達成できたかを確認）

- 1 楊口郡交流  
ジェスチャーやホームステイを通して異文化に触れることができた
- 2 A L T の配置活用  
小学校・中学校での活用方法を検討する必要があった
- 3 学力向上事業（英語）  
参加人数が増加した

## 《評価》

C: 交流を通して異文化に触れている。楊口郡交流の受け入れ協力家庭が少ないため課題となっている。A L T の活用について。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 学校図書館の充実（学校司書配置継続と図書館との連携強化）

事業番号 学び 11 (75)

## Purpose

(事業の目的)

学校図書館は、子どもが楽しく学び心育む上で重要な役割を果たす。また学校司書は、子どもと資料や情報をつなぐ不可欠な存在である。第6次総合計画「読書の一層の推進を図るための図書館との連携強化」「学校図書館への臨時職員の配置検討」（配置済）を「学校図書館の充実」とし更に向上させ継続する。

## Plan（目的達成のための計画）

- 1 小中学校図書館への学校司書配置継続
- 2 智頭図書館との連携強化
- 3 図書購入費の充実
  - ・ 学校図書館図書標準の達成

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 1 小中学校図書館へ学校司書を配置（臨時職員）
- 2 智頭図書館と連携し、授業支援や司書の研修を実施。
- 3 学校図書館の蔵書目標達成のための図書購入の予算化。

## Act（目的達成のために改善する事）

- ・ 小中学校図書館への学校司書配置継続
- ・ 智頭図書館とのさらなる連携強化
- ・ 図書購入費の充実

## Check（目的達成できたかを確認）

- ・ 小中学校図書館へ学校司書を配置した。
- ・ 図書の充実、智頭図書館との連携により、さらに子どもたちが読書に親しみ、学ぶ体制が確保できた。
- ・ 学校図書館を利用した授業が増えた。
- ・ 小学校、中学校ともに学校図書館図書標準を達成した。

## 《評価》

B 読書センターとして子どもたちはよく学校図書館を利用しており、学習センターとしても役割が確保されている。学校図書館の充実は、子どもが楽しく学び心育む上で重要な役割を果たすため、今後も継続して事業に取り組む必要がある。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 智頭町教育ビジョンに基づく教育（成果の検証とさらなる向上対策の推進）

事業番号 学び 12 (76)

## Purpose

(事業の目的)

智頭町を愛し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和がとれ、『生きる力』をもつ子どもを学校・家庭・地域で育成するという基本理念の達成のため教育ビジョンに基づき取組と検証を行う。

## Plan（目的達成のための計画）

- ・創造的学習、地域学習の実施
- ・町内学校ボランティア人材の活用
- ・智頭町教育ビジョンの検証（平成25年3月 改訂版）

## Do（目的達成のために実行したこと）

- ・関係機関の連携（小学校、中学校、保育園、地域、教育委員会など）

## Act（目的達成のために改善する事）

- ・智頭町教育ビジョン（二次改訂）（平成31年3月版）の周知と教育ビジョンに基づいた取組の実施。

## Check（目的達成できたかを確認）

それぞれの学校が工夫した学習を実践し、智頭町教育ビジョンに基づく教育が行われている。平成25年3月に改訂した智頭町教育ビジョンの二次改訂を実施。

### 《評価》

- 関係機関が連携し、智頭町教育ビジョンに基づく取り組みが行われている。教育ビジョンの二次改定に基づく具体的な取組を実施していく必要がある。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 青少年の健全育成の推進

事業番号

学び 13 (77)

## Purpose (事業の目的)

青少年育成団体等と連携し、青少年の見守り活動に始まり、体験と交流を通したまなびの場を提供し、青少年の健全育成を図る。

## Plan（目的達成のための計画）

- 青少年育成指導員のスキルアップと組織強化
- 青少年育成指導員によるサマーキャンプの開催
- 青少年育成指導員によるチャレンジ教室の開催

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 青少年育成指導員協議会
  - ・ 8回実施（サマーキャンプ、チャレンジ教室の実施について）
- サマーキャンプの実施
- 防災デイキャンプの実施

## Act（目的達成のために改善する事）

- 青少年育成指導員のスキルアップと組織強化の推進
- 各種事業の振返りを翌年度事業に活かす

## Check（目的達成できたかを確認）

- 青少年育成指導員協議会各事業の振返りの実施

## 《評価》

- C 青少年育成指導員が企画立案を行い、子どもたちが生き生きと活動が実施できてた。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： ちづNEXT

事業番号 学び 14 (78)

## Purpose

(事業の目的)

中学生が智頭町のことを学習することで郷土愛を育み、その経験を活かし百人委員会の企画立案や実践に繋げる。

## Plan（目的達成のための計画）

○中学生の総合学習で智頭町に関する学習を実施する。

## Do（目的達成のために実行したこと）

○町職員による小学生への智頭町に関する説明  
→人権、防災、観光、まちづくりについて説明  
(昨年度中学校に説明したものの、中学校側の反応は鈍く、今後の実施についての方向性が見えていないという背景のため)

## Act（目的達成のために改善する事）

○中学生に対し実施することがちづNEXTの本来の姿であるため、継続して中学校側と協議を行う。

## Check（目的達成できたかを確認）

○小学生に智頭町について知ってもらう事で、中学校でのちづNEXTの開催に向けての準備が出来た。

《評価》

E：中学校でのちづNEXT実現をすべく、所管課と連携をとって進める

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 地域の良さと歴史文化など、郷土を大切にする学習の導入

事業番号

学び 15 (79)

## Purpose

(事業の目的)

智頭町で生まれ育つ子どもたちが、智頭を学ぶことによって将来にわたって郷土に愛着を持ち、将来、智頭に住んでも、また、智頭の外に住んでも、郷土を愛する心の育成を図る。

## Plan（目的達成のための計画）

- 1 総合的な学習の時間等における地域学習
- 2 林業体験

## Do（目的達成のために実行したこと）

山村再生課、企画課との連携推進  
百人委員会事業活用（中学校3年生）  
5年生の林業体験

## Act（目的達成のために改善する事）

各課と学校がWIN-WINとなる活動の見直しと工夫。小中学校での社会に開かれた教育課程の編成。

## Check（目的達成できたかを確認）

各課の事業を活用し、連携した授業実践ができた

## 《評価》

C 各課の事業を活用し、連携した授業実践ができた。今後、各課と学校がさらに連携できるように小中学校の教育課程の見直しと工夫が必要になる。



# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 図書館を中心にした賑わい創出

事業番号 学び 18 (80)

## Purpose

(事業の目的)

令和2年度開館予定の新図書館は、住民に愛され必要とされる場となることを目指す。

## Plan（目的達成のための計画）

- 1 新規図書館利用者開拓
- 2 賑わい創出のための事業

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 福祉課前図書館コーナーの設置と運営
- 地域への出前講座
- 講演会、講座の開催
- 住民ワークショップの実施

## Act（目的達成のために改善する事）

- 未登録の児童・生徒への新規登録を働きかける
- 一般成人の図書館への関心を高める
- 関係機関との連携を強化する

## Check（目的達成できたかを確認）

- 図書館の利用者を継続性のある利用につなげていくことが課題
- 関係機関との連携が不十分

《評価》

- C 新しい図書館が、読書や本の貸出だけの場ではなく、住民の居場所や交流の場となることを周知していきたい。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 各文化サークルの活動支援と参加者の加入促進

事業番号 学び 19 (81)

## Purpose (事業の目的)

智頭町文化協会の活動を支援し、文化活動への参加、サークルへの加入を促進する。

## Plan（目的達成のための計画）

- 智頭町文化協会の活動支援
- 智頭町文化祭の開催

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 文化協会代表者を7回開催
- 智頭町文化協会活動費の補助
- 智頭町文化祭展示発表、芸能発表の開催
- サマーコンサート、ふれあいコンサートの開催

## Act（目的達成のために改善する事）

- 文化協会加盟団体相互の連携強化のための代表者会の開催

## Check（目的達成できたかを確認）

- 智頭町文化祭へ各団体からの展示物等の減少
- 文化協会会員の減少及び高齢化

### 《評価》

- 各文化サークルは、住民にとって多様な活動の場となっている。その中心となる文化協会は、加盟団体会員の高齢化が課題となっている。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 文化財保護・活用方策の明確化

事業番号 学び 20 (82)

## Purpose

(事業の目的)

文化財保護審議会等を通じて文化財保護に関する条例の整備、町民への啓発・意識向上を図る。

## Plan（目的達成のための計画）

- 文化財保護審議会の開催
- 町内文化財の調査・研究

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 智頭町埋蔵文化センター1周年を迎えた
- 林業道具が県有形民俗文化財に指定に向け調査

## Act（目的達成のために改善する事）

- 町内文化財の活用
- 智頭町埋蔵文化センター展示室の活用

## Check（目的達成できたかを確認）

- 文化財保護審議会 委員の委嘱
- 智頭町埋蔵文化センター来館者は455人
- 林業道具が県有形民俗文化財に指定された

## 《評価》

- C 新たに、林業道具が県指定有形文化財となった。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 地域伝統文化の後継者育成

事業番号 学び 21 (83)

## Purpose (事業の目的)

伝統芸能、伝統文化保存会と連携し、後継者の育成を推進する。

## Plan（目的達成のための計画）

- 伝統芸能、伝統文化の保存活動の支援
- 無形民俗文化財の記録・保存

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 智頭町社会教育計画に具体的に記載
- 無形民俗文化財「因幡の麒麟獅子舞」に指定にむけ調査

## Act（目的達成のために改善する事）

- 行政や地域、住民が連携していく必要がある

## Check（目的達成できたかを確認）

- 智頭町社会教育計画に示された事業を推進できなかった
- 無形民俗文化財「因幡の麒麟獅子舞」に指定にむけ関係者の同意を得た

## 《評価》

- C 担い手の高齢化・後継者不足が大きな問題があるが、麒麟獅子が有形民俗文化財指定に向けた取り組みができた

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 各地区公民館の地域の生涯学習拠点としての明確化

事業番号 学び 22 (84)

## Purpose (事業の目的)

地域の生涯学習の拠点として地区公民館の運営、施設の維持・管理を行うとともに、公民館活動費の一部を委託料として支払う。

## Plan（目的達成のための計画）

- 町内7地区公民館の運営、施設の維持管理等を各地区公民館と共同で行う
- 各地区公民館で自主・独創的な活動を熟成される。

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 那岐地区公民館会議室にエアコンを設置
- 各地区公民館で独創的な事業に取り組んだ

## Act（目的達成のために改善する事）

- 町主催の行事を事前に把握し、公民館行事の日程を調整した

## Check（目的達成できたかを確認）

- 各地区公民館連絡協議会を開催し、事業の問題点等を話し合った

## 《評価》

- C 各地域の交流・生涯学習の拠点として活発に活用されているが、老朽化も進んでおり今後随時修繕の手を入れていく必要が見込まれる。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 各地区公民館と中央公民館の役割の明確化と連携強化の促進

事業番号 学び 23 (85)

## Purpose (事業の目的)

地域の生涯学習の拠点として地区公民館事業とあわせて町全域を対象とする中央公民館事業を実施し社会教育の充実を図るとともに、地区公民館、中央公民館の連携を図る。

## Plan（目的達成のための計画）

- 地域の生涯学習の拠点として町全域を対象とする公民館事業を展開し社会教育の充実を図る
- 統括公民館として各地区公民館の連絡を密に、中央・各地区館連携のもと、町民全世代の学習活動の拠りどころとなる施設づくり

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 各地区運動会、公民館祭の巡回視察

## Act（目的達成のために改善する事）

- 中央公民館が町民全体を対象とした学習を開催する

## Check（目的達成できたかを確認）

- 各地区公民館の行事を把握することができた。

## 《評価》

- C 各公民館の連携の中心としての役割は果たせていたが、生涯学習の拠点としての機能は今後充実させていく必要がある。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 図書館事業

事業番号 学び 24 (86)

## Purpose

(事業の目的)

住民の生涯学習の拠点として、資料を整備し専門職の司書によって図書館サービスと読書事業の展開を図る。

## Plan（目的達成のための計画）

- 1 図書館サービスの充実と新規図書館利用者の開拓
- 2 子どもの読書環境の整備
- 3 地域資料の充実
- 4 高齢者の読書活動の支援
- 5 図書館利用啓発事業

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 図書館FBの活用
- 保育園・学校図書館との連携
- 地域資料寄贈のよびかけと献本の受入
- あたまイキイキ音読教室の実施と出前講座
- 図書館まつりの開催

## Act（目的達成のために改善する事）

- 住民への図書館サービスPRの強化
- 保育園・学校図書館との連携の継続
- 地域資料の掘り起こし
- 住民参画の図書館事業の実施

## Check（目的達成できたかを確認）

- 図書館を利用する住民の割合を上げていくことが課題
- 保育園・学校図書館との連携による子どもの読書活動の推進
- 献本の依頼は増えたが、地域資料収集が今後の課題
- 事業実施を今後町全体へ広げることが課題

《評価》

C 町民全体の図書館利用や周知が今一步であり、今後の新図書館の開館へ向け課題となっている。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 智頭農林高校との連携

事業番号 学び 16 (87)

## Purpose

(事業の目的)

智頭農林高校の魅力アップを行うため、地域おこし協力隊を2名派遣し、学校に新しい風を吹かせ、農林高校の活性化を図る。  
また、百人委員会学生部の部に参加し、学生自らが汗をかき、実践することで、やりがいを生ませることを目的とする。

## Plan（目的達成のための計画）

- 百人委員会学生部の部への参加
- 地域おこし協力隊派遣による農林高校活性化

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 百人委員会活動の実践・企画提案会への参加  
(智頭宿魅力アッププロジェクト、ちのりんショップの運営)

## Act（目的達成のために改善する事）

- 地方と都会のニーズ把握  
(出張ちのりんショップを通じ、地方と都会のニーズの違いを検証。  
安定的な供給対策、智頭町の認知度向上を引き続き検討する。)
- 地元商店街との連携強化  
(ちのりんショップの不定期開催を定期開催に変更し、商店街イベント  
等とコラボして地域の活性化を図る。)
- 地域おこし協力隊を主軸とした新たなプロジェクトの発足  
(高校生や地域住民に誇りや愛着をもってもらえる新たな企画の提案)

## Check（目的達成できたかを確認）

- 百人委員会活動への参加により、智頭宿の魅力向上、商店街の活性化につながった。  
<智頭宿魅力アッププロジェクト（格子製作・藍染のれん製作）>  
格子製作は地域の認知度も徐々に向上している。  
藍染のれん製作では、地元中学生等と藍染交流が図れた。  
<ちのりんショップ運営>  
くつろぎタイムカフェとして店内にカフェスペースを設け、学校園場で栽培した野菜等の販売を実践し、賑わい感を演出できた。  
また、出張ちのりんショップを岡本商店街で開催し、学校生産物の付加価値に気付くことができた。

## 《評価》

C：継続的な事業でマンネリ感はないものの、事業アレンジや改善策の立案など、自分たちの活動に対する誇りや地域への愛着心は育まれている。



# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 森林・林業教育の推進（児童・生徒の学習体験・木育の推進等）

事業番号 学び17(88)

## Purpose

(事業の目的)

幼少期から木にふれあうことで森林に関心をもつことを醸成し、加えて子育て世代へ向けて木（木材）の良さを普及することにより、生活の中における木材への関心を深めるとともに、町内の学校と連携して、森林・林業教育をサポートしていくこと。

## Plan（目的達成のための計画）

- 町内の新生児に木製おもちゃ（智頭町産材製）を誕生記念として贈呈  
贈呈の際には、贈呈式を木育キャラバンin智頭町と同時に開催する。
- 智頭小学校の林業学習に係る支援

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 智頭杉を使用した木製トラック及び木製列車を平成30年1月～12月に誕生された新生児36名に贈呈した。
- 木育キャラバンin智頭町を開催  
木のぬくもりを直接手に触れて感じてもらい、子育て世代の木への理解を深める活動として開催。
- 智頭小学校5年生の林業学習の支援  
智頭小学校の5年生が林業学習の一環で、立木から市場へ出荷され材料として使用されるまでの流れを学習。

## Act（目的達成のために改善する事）

- 次年度は、木のおもちゃ製作に係る体制を再構築する。
- 林業学習は小学校と連携、調整し引き続き実施する。こども達が、より分かりやすく智頭林業を学び、地域で実際に林業に携わっている者を講師として迎え智頭林業への理解を深めたい。

## Check（目的達成できたかを確認）

- 木のおもちゃ贈呈式を木育キャラバンin智頭町と同時に開催し、15組の新生児の家族に参加していただき、誕生記念品として作り手の想いや木育について知っていただく良い機会となったが、来年度からはこれまでと同様の体制での製作が困難となったことから、体制の再構築が必要となった。
- 木育キャラバンin智頭町では、昨年より広く告知を行ったことで町内外の子育て世代250名（前年対比56%増）が参加され、木育について知っていただく機会や木の温もり等を直接感じていただけた。
- 智頭小学校の林業学習では、林業に従事している保護者が講師として学習を行った。木の伐採を始め山から市場へと運び出荷された木が、製材所で木材としてどのように活用されるのかまでを学ぶことができた。

## 《評価》

B：新生児へ誕生記念品の贈呈及び幅広い世代を対象とした木育キャラバンの開催により幼少期から木のぬくもりに触れ、あたたかみを感じることで、智頭林業や木材への関心を深め木への関心を高めることができた。また、小学生の林業体験では、実際に林業に携わる方からお話を聞くことで森林を身近に感じ智頭林業への関心をもつきっかけとなり目的に近づくことができた。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 企業支援事業

事業番号 仕事 12 (89)

## Purpose

(事業の目的)

経済活性化と雇用機会の確保・創出のため、企業ニーズに応じた柔軟な補助制度の検討、創設を行う。また、町内製品等を公共事業や補助事業等に採用するための条例を制定し、地場産業を強化する。

## Plan（目的達成のための計画）

- 町内企業訪問による個別ヒアリングシートの作成
- 智頭町・鳥取県補助制度の周知
- 町内企業の立地の促進及び雇用機会の拡大を図るための企業支援

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 定期的な町内企業訪問の実施、ヒアリングシートの作成
- 設備投資及び町内在住の新規雇用を行った事業所への財政支援
- 町内中小企業の活性化及び経営の安定化を目的とした補助制度を創設（信用保証料補助金：県の融資制度を活用した際の信用保証料の助成）

## Act（目的達成のために改善する事）

- 企業ニーズに応じた柔軟な補助制度の創設、並びに現行補助制度の改正（町内企業の経営安定化、地場産業の活性化を促進するための新たな補助制度の創設を始め、起業を促進するために現行補助制度の一部改正を実施し、地場産業の活性化をはじめ、業務拡大・雇用促進に結びつける）
- 商工会との連携による補助制度周知の徹底（商工会と連携して補助制度情報を周知し、相談しやすい体制を構築する）

## Check（目的達成できたかを確認）

- 町内企業訪問の実施により各事業所が抱える懸案事項、今後の設備投資などの情報を知り得ることができた
- 町内中小企業の設備投資に要する経費並びに町内在住新規雇用に対しての財政支援を行い、経済の活性化及び町民生活の安定と向上に貢献
- 新たな補助制度により町内中小企業の活性化・経営の安定化に寄与

## 《評価》

B：町内中小企業への財政支援により、事業の活性化や経営の安定化などに寄与していると考えられる。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 商店街との連携による空き店舗の活用検討

事業番号 仕事 13 (90)

## Purpose (事業の目的)

かわらまち商店街の空き店舗は持ち家である場合が多いが、意向調査を行い、起業・創業・チャレンジショップなど、賑わい創出に受けて活用を検討していく。

## Plan（目的達成のための計画）

- 智頭農林高校との連携による商店街店舗の活用（ちのりんショップ）
- 地域資源の再発掘による商品開発やサービスを「地域ブランド商品」として展開していくため、地域ブランドの確立に向けた調査等を実施し、地域外からの需要を呼び込み、持続的な地域経済の活性化を図る
- 智頭図書館建設との連携による地域活性化策の検討。

## Do（目的達成のために実行したこと）

- かわらまち商店街でのちのりんショップの開催（年間10回開催）  
平成29年度は兵庫県岡本商店街での出張ちのりんショップも開催
- まちづくり団体に対し、地域ブランド化推進業務を委託。住民参加型WSを2回開催し、智頭ブランド商品の開発に向けた検討を実施。
- 平成32年度開館予定の智頭図書館から智頭宿を通じるエリアをちづみちとして位置づけ、図書館を起点にした賑わい創出の検討、事業申請の実施。

## Act（目的達成のために改善する事）

- 現行ちのりんショップの集客増加及び各種イベント実施に向けた検討会の開催  
（定期開催を行ったものの、来店者数については伸び悩んでいる状況である。ちのりんショップに限定せず、各種イベント開催等による地域の活性化策を図る必要がある。今後も継続して地域と連携を取り、各種イベント開催等を通じて来店者数を増やす。）
- WSの結果を基に地域連携による各種サービスや商品開発など、空き店舗棟を活用し商店街の活性化を図る。
- ちづみちエリアリノベーション事業実施に向け、関係職員・町内関係者を集め、キックオフイベントを行い、今後の事業計画等のブラッシュアップを行う。

## Check（目的達成できたかを確認）

- ちのりんショップの開催を通じて、地域の方々が訪れ、商店街の活性化に貢献した。
- 住民参加型WSを通じて各事業主によるアイデアを抽出し、地域ブランドの確立に向けた商品開発等に向けた方向性を見出せた。
- ちづみちエリアリノベーション事業として、事業が採択された。  
（図書館を起点とした昔ながらの商店街や空き家等を活用した賑わい創出事業・・・ソフト事業）

## 《評価》

C：智頭農林高校との連携によるちのりんショップの開催は閑散化した商店街の活性化に一石を投じているものの集客に伸び悩んでいる。ちのりんショップだけに限定しない各種イベント実施など模索して集客力アップを目指す必要あり。また、WS結果を基に地域ブランドの確立に向けた取り組み強化に併せ起業・創業に向けた店舗情報の提供等に努め、かつての賑わいを取り戻せるよう努める。新たに立ち上げたちづみちエリアリノベーション事業について、関係者を招集し具体的な事業計画等の検討が必要。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： イベント活性化促進事業

事業番号 仲間づくり 3 (91)

## Purpose

(事業の目的)

町内のイベントに出店団体の参加を促す。

## Plan（目的達成のための計画）

- 町のイベントを盛り上げるために「杉小判」を活用し、出店者の増加を目指すことで、町全体の盛り上がりを図る
- 地域活性化制度の周知。
- 制度について問題点等の検討。

## Do（目的達成のために実施したこと）

- イベント出店者へ担当者から直接的なPR活動を行い、周知した。
- 広報・SNS等での周知。

## Act（目的達成のために実行する事）

- イベント実行委員会・地区行事等での制度PRの実施。
- 利用しやすいある制度にしていくため、出店者アンケートを行う。

## Check（目的達成できたかを検証）

- 直接的なPR活動によって、制度の周知は概ねできた。今後各地区行事等でのPRを継続的に実施し、地域イベントへのさらなる出店者の増加に期待。
- 出店者へのアンケート調査が実施できていないため、来年度の実施に向けて調整する。

## 《評価》

B：平成30年度は、当制度を5団体（輪舞・山形地区振興協議会・商工会青年部・夢来づくり中原・商工会女性部）が活用した。今後、更なる周知活動に力を入れ、賑わい創出の観点から町内イベントに出店する団体を増やす必要がある。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： ゼロイチの更なる発展

事業番号 仲間 4(92)

## Purpose (事業の目的)

平成9年度から始まっている日本1/0村おこし運動は現在、地区振興協議会を中心に活動している。この地区振興協議会のソフト事業に対し補助を行う。また、地区振興協議会が行政と住民の中間的組織となり、地域活性化となる事業を行う。また、事務局員に地域おこし協力隊、集落支援員等を配置し、事業運営を促進する。

## Plan（目的達成のための計画）

- 定期的な連絡協議会の開催
- 各地区振興協議会事務局との連携強化  
(各地区事務局との相談しやすい体制を構築)
- 円滑な事業運営を行うための集落支援員の配置
- 各地区における将来ビジョンの形成・具現化

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 定期的な連絡協議会の開催による情報共有
- 関係者との事業協議の場の設置、補助制度の活用による将来ビジョンの形成（鳥取県東部振興課）
- 新たに各地区振興協議会へ集落支援員を配置（山郷・山形）

## Act（目的達成のために改善する事）

- 補助制度終了後の地区のサポート  
(補助制度が終了した地区に向けての新たな支援策を検討し、持続的な自立運営に結び付ける)
- 継続的な関係者との連携及び強化  
(引き続き各地区振興協議会が連携を取り、地域活性化の強化を図る)
- 無理のないまちづくりに向けた事業プランニングの検証

## Check（目的達成できたかを確認）

- 連絡協議会の開催により各地区の状況など情報共有が図れた
  - 集落支援員の配置により各地区振興協議会における円滑な事業運営に貢献した。
- また、県の補助制度の活用して、地域が抱える課題・将来ビジョン等を検証し、持続可能なまちづくりの実現に向けた一歩を踏み出すことができた。

## 《評価》

C：地区ゼロイチ開始後10年経過する地区もあり、今後のサポート体制が課題。また、自立運営に向けた地域計画等の作成に向け、今後も有用な補助制度の活用等視野に入れる必要性あり。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 空き校舎等活用推進

事業番号 仲間 7(93)

## Purpose

(事業の目的)

廃校となった5つの空き校舎を地元住民が活用について検討し、地域に見合った利活用を検討し、実践する。  
また、活用するにあたり、インフラ整備については、行政が一部補助を行い、空き校舎の利活用を推進する。

## Plan（目的達成のための計画）

- 各地区内の空き校舎の利活用に向けた事業協議の実施
- 智頭町補助制度の周知
- 利活用に向けた企業誘致等

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 空き校舎の利活用に向けた事業協議の実施並びに事業の実践  
（山郷：ゲストルーム事業実施に係る備品整備）  
（那岐：企業研修及び国内外交流事業に促進に向けた空調整備）
- 要望内容に対する予算確保

## Act（目的達成のために改善する事）

- 今後必要となる事業の精査並びに事業計画の策定  
（空き校舎を活用した収益事業の確立や企業誘致など、長期的な事業計画の策定を促し、地域の活性化を図る）
- 鳥取県補助制度の有効活用  
（鳥取県の補助制度を有効活用し、今後地域づくりを進めていく上で重要となる地域計画づくりの実施）
- 外部有識者の有効活用

## Check（目的達成できたかを確認）

- 事業協議の実施により、各地区での今後の活用計画などの情報を知り得ることができた
- 施設整備により地区振興協議会活動の促進に寄与

## 《評価》

C：地域に見合った利活用の検証、実践については一定の効果あり。今後の検討課題として整備したものをいかに活用し、地域の活性化・自立運営を定着させるかが検討課題。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 空き校舎等利活用研究事業

事業番号 仲間 8(94)

## Purpose (事業の目的)

空き校舎等の利活調査を5地区が連携して行い、持続性を高める。

## Plan（目的達成のための計画）

- 空き校舎等利活用幹事会の開催による情報共有・要望調査の実施
- 空き校舎利活用の先進地の活用事例等の研究

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 定期的な利活用幹事会の実施による各地区要望調査
- 全国的な空き校舎利活用先進地の活用事例等の研究  
※先進地視察研修の実施（奈良県）

## Act（目的達成のために改善する事）

- 各地区での研究や、先進地視察で得た情報を具現化  
（これまでの研究成果や、先進地視察を通じて得た情報を持ち帰り、それぞれの地区でできることを検証し、アウトプットする）
- 引き続き各地区の連携強化を図り、各地区独自の利活用・活性化を検討  
（今後も各地区が情報共有を図り、企業誘致等を始め独自の取り組みを検証し、地域経営や活性化に結び付ける）

## Check（目的達成できたかを確認）

- 利活用幹事会を通じて各地区が検討している課題についての情報共有が図れた。
- 空き校舎利活用の先進地の視察を通じた活用事例を学び、自地域での実現性等について検証ができた。

## 《評価》

C：先進地視察などを通じて得た情報を今後いかに活用するか検証の必要性あり。今後も引き続き各地区振興協議会間の情報共有・連携に努める。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 地域体育館（空き校舎）の生涯学習・交流の場として活用

事業番号 仲間づくり 9 (95)

## Purpose (事業の目的)

廃校となった後、現在は地区公民館、地元の体育施設等として活用されている。住民が慣れ親しんだ学校施設である。今後もできる限りの補修を続け、地域のスポーツ・文化活動等に活用することで、ふたたび小学校を教育の拠点として、また、地域住民の交流の場としての活用を図る。

## Plan（目的達成のための計画）

- 今後もできる限りの補修を続け、地域のスポーツ・文化活動に活用

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 各地区公民館に施設使用の許可等を依頼している
- 軽微な修繕は行った

## Act（目的達成のために改善する事）

- 各地区毎の団体等に利用してもらえるよう調整を行っている

## Check（目的達成できたかを確認）

- 施設使用料について、地区公民館と協議している

## 《評価》

- C 地域のスポーツの場として、また催しの場として希望に応じて利用されている。



# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 百人委員会

事業番号 仲間 11(96)

## Purpose (事業の目的)

町民自ら実行することによる町政への参加意識の醸成と、一般の部と学生の部のそれぞれ活動することにより、子どもの頃から自分が行動することで町が変わることを意識づけが目的である。

## Plan（目的達成のための計画）

- 百人委員会委員募集 目標100人
- 百人委員会総会・企画提案会実施
- 運営委員会開催（部長、副部長が情報共有し、百人委員会のPR、部会同士の連携などについて話し合う）
- 既存部会活動に捉われない新たな事業提案の場の創出

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 百人委員会出発式（H30.5.7）
- 百人委員会運営委員会
  - ・5回実施（活動展示・PRポスター作成・記念誌製作協議）
- 百人委員会企画提案会 ・一般の部11事業、学生の部3事業
- 百人委員会記念誌の発刊
- 百人委員会委員募集（PRポスター作成）
- 各部会取組PR（ルバージュ販売促進、百人委員会記念誌発刊）
- オープン会議の開催による交流促進・新規提案の発掘
- 百人委員会総会（活動の報告）

## Act（目的達成のために改善する事）

- 百人委員会の組織体制の再検証  
（委員の固定化・活動人口減少を食い止めるために、部会の枠のない企画会の定期開催など。）
- 百人委員会PR方法を検討。  
（多く人が参加し、多種多様な提案に結びつけるため）
- 智頭NEXTを中学1年生を対象に実施し、智頭町について学ぶ機会を創出する。
- 記念誌やホームページなどを活用して、新たな委員の獲得に努める。

## Check（目的達成できたかを確認）

提案が一般の部で11事業、学生の部で3事業あり、参加意識の醸成ができていと考えられるが、事業のマネリ化や活動メンバーの固定化が懸案事項である。また、学生の部については、教員の関わりが多くなっており、自主的な学びや課題解決となっていない現状がある。

新たな試みとして、これまでの部会活動に捉われない事業提案の場としてオープン会議（まんぐるじゅう）を開催。これまで百人委員会活動に参加したことのない人との交流を始め、新規企画提案の発掘にもつながった点は評価できる。

これまでの百人委員会の歴史（各部会の活動の軌跡）を振り返る百人委員会記念誌を発刊し、町内全戸・関係機関に配布。

## 《評価》

C：百人委員会開始後10年経過し、年々課題が多くなってきている。現状の課題を究明し、誰もが参加しやすい会の運営のほか、更なる住民自治の促進について引き続き検証が必要である。また、新たな委員の獲得に努め、住民自治による持続可能なまちづくりの実現を目指す。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 総合計画周知及び実践事業（検証含む）

事業番号 仲間づくり 12 (97)

## Purpose

（事業の目的）

第7次総合計画の内容を住民に周知し、役場の仕事を知ってもらう。また、それについて実践したことを検証、評価し、公表することで住民に理解を図る。

## Plan（目的達成のための計画）

- 総合計画実施計画の計画について、実績をまとめる。
- PDCAシートの公表

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 各課で実績をまとめ、実施計画書に入力した。
- PDCAサイクルマネジメントを事業毎に実施し、とりまとめてホームページで公表した。

## Act（目的達成のために改善する事）

- 新規事業、廃止事業などの整理を行い、住民のみなさまへ周知を行う。
- 総合計画の事業毎の効果検証のためにアンケートを検討。

## Check（目的達成できたかを確認）

- 実績を見直すことにより、目的達成できたかどうかの確認ができた。
- PDCAサイクルマネジメントを行うことになり、各事業の振り返りができ、今後の改善まで目を向けることができた。

## 《評価》

C：PDCAシートの公表を行ったため、周知はできたが、さらに周知を進めるための改良が必要。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 国内交流事業の積極的な推進

事業番号

仲間 16 (98)

## Purpose

(事業の目的)

毎年11月上旬に行われている摂津市農業祭に参加し、智頭町の新鮮な野菜や加工品を販売し、智頭町のPRを行う。  
また、摂津市農業祭だけでなく、智頭町と摂津市が様々な交流を行う。  
さらに新しい市町村と交流の場を設け、智頭町を全国へPRする。

## Plan（目的達成のための計画）

- ・他地域との交流
- ・智頭町のPR

## Do（目的達成のために実行したこと）

- ・各地区に摂津市農業祭への参加を呼びかける
- ・参加地区の生産物を摂津市に運搬、販売
- ・智頭町のPRを実施
- ・源流サミットの開催

## Act（目的達成のために改善する事）

- ・摂津市との交流が途絶えてしまう可能性があるため、農業祭以外の交流の場の検討が必要。
- ・摂津市以外の地域との交流を検討する必要がある。

## Check（目的達成できたかを確認）

摂津市農業祭では、智頭の生産物がとても好評で8～9割程度販売することが出来た。販売開始までに並ばれていた来場者に智頭町のPRとチラシ配布を行う事ができた。  
摂津市農業祭については車の借上げ、職員の派遣など、地区振へ出店の支援を当年度までとし、来年度からは参加希望団体が全て負担をすることとなった。  
智頭町開催の源流サミットを開催。各町における獣害対策について発表、意見交換を行った。

## 《評価》

C：来場者に食材とPRをとおして智頭町に興味を持ってもらえた。新規の交流の場の検討が課題となる。

# 第7次総合計画 進行管理検証シート（平成30年度事業）

事業名： 国際交流の推進

事業番号 仲間づくり 17 (99)

## Purpose

(事業の目的)

1999年に友好提携を締結した大韓民国江原道楊口郡と青少年交流、民間団体交流、職員交流などを行うことで、他国の文化や制度を知り、人材育成や地域間の交友を深める。

## Plan（目的達成のための計画）

これまで様々な交流事業を通して、智頭町と楊口郡の友好は深まっているが、地域間の交友をさらに深めると共に、人材の育成につながるような新しい分野での交流も行っていく。

## Do（目的達成のために実行したこと）

- 生態山林活用研修  
楊口郡職員6名、3泊4日
- 青少年交流事業  
智頭町生徒12名、随行者3名、4泊5日
- 職員短期研修事業  
職員3名 6泊7日
- セラピー交流及び実務者協議  
森のガイド3名、智頭町職員3名、3泊4日

## Act（目的達成のために改善する事）

今後も新しい分野の交流事業を通して相互の文化の理解を深め、両都市の発展につなげる。

- 長期交流事業の再開

## Check（目的達成できたかを確認）

生態山林活用研修にて、楊口郡と智頭町の担当部署同士の交流により、相互の事業の良いところを知り、今後の事業の参考となるような内容となった。セラピー交流では民間から森のガイドの会が参加され、地域間としての交流を深め、さらには両都市の発展に繋がる内容となった。全体の交流を通して異国の文化への理解が深まり、人材の育成にもつながっている。

## 《評価》

C：今後もさまざまな相互交流を通して人材の育成と地域間の友好を深めていく